

古文
③ 古典の基本問題

春はあけぼの。やうやうしろくなりゆく山ぎは、すこし明かりて、紫だちたる雲の細くたなびきたる。

夏は夜。月のころはさらなり。闇もなほ、螢の多く飛びちがひたる。また、ただ一つ二つなど、ほのかにうち光りて行くもをかし。雨など降るもをかし。

秋は夕暮れ。夕日のさして山の端いと近うなりたるに、烏の寝どころへ行くとして、三つ四つ、二つ三つなど飛びいそぐさへあはれなり。

まいて雁などの連ねたるが、いと小さく見ゆるは、いとをかし。日入りはてて、風の音、虫の音など、はた言ふべきにあらず。

冬はつとめて。雪の降りたるは、言ふべきにもあらず。霜のいと白きも。またさらでもいと寒きに、火など急ぎおこして、炭持てわたるも、いとつきづきし。

昼になりて、ぬるくゆるびもていけば、火桶けの火も、白き灰がちになりて、わろし。

『枕草子』

(一) 基本問題①

① () に適当な語句を入れなさい。
『枕草子』は (平安) 時代の中期に、(清少納言) によって執筆された (随筆) である。

② 「あけぼの」の意味を次の中から選びなさい。(ウ) ()
(ア) 陽の光 (イ) 夕焼け (ウ) 明け方

③ 「やうやう」を現代仮名遣いに直しなさい。
() ()

④ 「やうやう」の意味を次の中から選びなさい。(イ) ()
(ア) やっと (イ) だんだんと (ウ) すぐに

⑤ 「山ぎは」の意味と対になる言葉を本文から書き抜きなさい。
意味 (山 の 稜 線 に 接 す る あ た り の 空)

対になる言葉 (山 の 端) ()

- ⑥ 「さらなり」の意味として適切なものを次から選びなさい。(イ)
- (ア) ますますそうだ (イ) 言うまでもない (ウ) 違うようだ
- ⑦ 「闇もなほ」と感じている理由を答えなさい。
- () 蛍の光を見ることができから ()
- ⑧ 「夏は夜」について、趣があるものとして書かれているものを三つ答えなさい。
- () 月の出ている夜 ()
- () 蛍が多くまたは一匹二匹飛んでいる闇夜 ()
- () 雨が降っている夜 ()

(2) 基本問題②

- ① 「あはれなり」の意味を答えなさい。
- () しみじみと趣深い ()
- ② 「まいて」を現代仮名遣いに直しなさい。
- () まして ()
- ③ 「いと」の意味を答えなさい。
- () 大変 非常に ()
- ④ 秋は夕暮れの段落を二つに分けるとしたら後半はどこからか。④
- () 日入り果てて ()
- ⑤ 秋は夕暮れを二つに分けた前半と後半はそれぞれ視覚的表現と聴覚的表現どちらが使われているか。
- 前半 (視覚的表現) (後半) 聴覚的表現 ()
- ⑥ 「つとめて」の意味を答えなさい。また、「つとめて」と「あけぼの」とどちらが早い時間か。
- つとめて () 早朝 ()
- 早い時間は () 「あけぼの」 ()
- ⑦ 「つなきし」「は似つかわしい」という意味だが、何と似つかわしいのか答えなさい。
- () 冬の早朝 ()

⑧ 「ぬるくゆるびもていけば」は何が、ぬるくゆるびもていくのか。答えなさい。
(寒さ)

⑨ 「わろし」は何が良くないと言っているのか。説明しなさい。

(冬は朝、寒いときに炭が燃えているのが趣があるのに、昼になって寒くなくなり、白い灰ばかりになっってしまうこと)



がっこのおとち

中学生 問題集